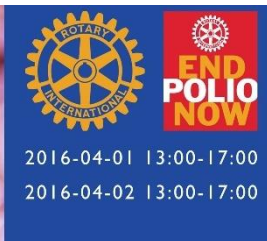


月 信

第2640地区 2016年5月(11)



E-Conference in 2640

Netを使用したロータリーE-Conferenceが2016年4月1日～2日に盛大に開催されました。参加者数は838名でした。

当日は、ローターアクト、インターアクトのご協力により、地区内で初めての電子会議となりました。また、講師として、浅田進先生をお迎えして、インドポリオ投与体験談についてのお話をお聞きしました。

Be a gift to the world

2015-16年度の国際ロータリー会長に就任するK.R.ラビンドラン氏は、同年度のテーマを「世界へのプレゼントになろう」としました。ラビンドラン氏はロータリー会員に、より良い世界をめざして、時間、才能、知識を世界中の地域社会に贈るよう呼びかけます。「ロータリアン会員が自らを『プレゼント』することによって、世界中の人びとの生活を真に改善できるのです」

ソウル国際大会の登録に関するレポート: 第2640地区

第2640地区の登録者数目標		300名
支払い済みの登録者数(2016年4月25日現在)	190名	63%
登録者総数(2016年4月25日現在)	198名	66%

国際ロータリー 第2640地区豊澤事務所

- ・住所 〒640-8281 和歌山県和歌山市湊通丁南1-3-1
- ・TEL 073-433-6077
- ・E-mail office@2640.jp
- ・ホームページ <http://www.2640.jp>



『RI会長からのメッセージ』

RI会長からのメッセージ

K.R. ラビンドラン

2015-16年度会長

2016年5月



数年前、善意ある開発援助機関が、ケニアのカノ平原で水供給プロジェクトを行おうとしたときのことです。実行委員会を結成し、会議を開き、地元の人とも話し合いました。そして、灌漑と家畜用の水供給システムを改善するニーズがあることがわかりました。地元代表者の望む通りに、このニーズに取り組む計画を立て、早速実行に移すところでした。

しかし、いざ工事が始まると、地元の女性グループが反対の声を上げ、水の迂回路を作ろうとする作業員の前に立ちはだかりました。開発援助機関によるさらなる調査でわかったことは、農業用に迂回させようとした水は、それまで何世帯もが飲料水や生活水として使う唯一の水源地だったのです。開発プロジェクトは一からやり直しとなりました。

なぜこんなことが起きたのでしょうか。それは地域住民を代表するグループがすべて男性で、女性の声を聞くことを考えてもみなかったからです。計画のどの段階でも、男性たちは地域の事情とニーズをよく知り、地域を代表できると思い込んでいました。これが実情とは異なることは明らかです。地域のニーズとリソースをよく理解していたのは女性たちでしたが、その意見を求められることはありませんでした。ロータリーに女性が参加するようになったのはわずか数十年前のことですが、それ以来、ロータリーが最も生産的であるのは偶然ではありません。1995年当時、会員の20人に1人が女性でした。それが今では5人に1人の割合です。進歩していますが、まだ十分ではありません。地域社会を代表するなら、その地域全体をクラブに十分に反映させる必要があるのは当然のことです。地域のために奉仕するには、ロータリーに地域の実情を反映させる必要があるのです。

男女平等に関するロータリーの方針は非常に明確です。しかしながら、5分の1近くのクラブは女性の入会を今も拒み続けています。会員となるにふさわしい女性が見つからないと言うのです。そう論じるロータリアンに対して、私はこう申し上げるでしょう。その方こそ、ロータリー会員に求められる最も基本的な2つの資質、すなわち「誠実さ」と「良識」が欠けている、と。

女性への門戸を閉ざすクラブは、持ちうる才能、能力、人脈の半分以上を見逃しています。地域社会や人びとへの奉仕に欠かせない、大切な視点を失っているのです。私たちの可能性を限定するような固定概念に固執すれば、奉仕活動だけでなく組織全体がダメージを受けましょう。またパートナー団体が私たちを真剣にとらえることはなくなり、入会見込者にとって魅力的な団体と映るに違いありません。特にロータリーの未来に欠かせない若い層を失うこととなります。

女性差別の容認は、ロータリーをまったく見当違いの組織へと追い込むことになるでしょう。今もポール・ハリスの時代に生きているふりをするわけにはいかず、ハリス自身もそれを望んでいないはずで、ハリスが「ロータリーの物語は何度も何度も書き替えられなければならない」と言ったように、ハリスが誇りに思うようなロータリーの物語をともにつづりましょう。

『2016年規定審議会速報』

- 2016年4月14日
規定審議会は木曜、毎年オンラインで開催する決議審議会の創設を承認しました。決議審議会ではRI理事会に提出する決議案の検討が行われることとなり、これにより、3年に1度開かれる規定審議会では、ロータリーの組織規定に変更を加える制定案に集中して審議することが可能となります。本件の提案者は、この変更に伴い規定審議会を1日短縮できれば最大30万ドルの費用削減につながると主張し、決議審議会の創設により、クラブとRI理事会の間のコミュニケーション経路が築かれると指摘しました。また、ローターアクターが同時にロータリークラブの正会員となることを認める制定案も採択されました。
- 2016年4月13日
規定審議会は水曜、ロータリークラブの繁栄を促すプログラムと業務を提供する必要性に鑑み、クラブがRIに支払う人頭分担金を、3年にわたって毎年4ドルずつ増額する立法案を採択しました。RI財務長のパー・ホイエン氏は、「10人中9人のロータリアンがより多くの業務を要求しているとのこと。理事会としても、クラブや地区への支援業務を減らしたくはない。今こそロータリーの未来に投資し、ロータリーの力強い前進を可能にするべき」と話し、本案件を支持しました。本決定により、人頭分担金は2017-18年度に60ドル、2018-19年度に64ドル、2019-20年度に68ドルに増額されます。



『2016年規定審議会速報』



- 2016年4月12日
火曜日の規定審議会では、昨日から引き続き「柔軟性」に焦点を当てた討議が行われ、クラブ会員資格をシンプルにする立法案が採択されました。これは、RI定款(第5条第2節)から会員資格6項目を削除し、「職業上および(または)地域社会でよい評判を受けており、地域社会および(または)世界において奉仕する意欲のある人」という簡潔な会員資格に変えるものです。この案件の提案者は、この変更によって「(資格条件の)チェックリストに従うのではなく、クラブが独自に会員を選ぶ」裁量を与えられ、会員増強が促されると主張しました。新しい会員の種類「準会員」を創設する件と、ローターアクターがロータークラブに入会することを認める件に関する審議は、木曜日まで延期することが決定されました。
- 2016年4月11日
規定審議会は月曜、クラブの例会と会員身分により柔軟性を与える2つの立法案を審議。これらはいずれもRI理事会からの支持を得たもので、盛んな討論の末、圧倒的多数の賛成票で採択されました。一つは、クラブが月に少なくとも2回以上の例会を行う限り、いつ、どのくらいの頻度で例会を開くか、あるいは例会をキャンセルするか、また何をもって例会とするかについて、より多くの裁量をクラブに与えるものです。もう一つは、会員身分について新しい試みができる柔軟性をクラブに与えるものです。提案者は「一つの方法がすべてに当てはまるわけではない」と指摘し、地域社会にとって最善の決定を行うために、より多くの自由がクラブに必要であると論じました。

『ロータリー財団専門家グループのニュースレター』

2016年が始まり、皆さまにおかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと拝察いたします。

補助金専門家グループは、ロータリー財団のプログラム委員会およびロータリー戦略・評価担当職員との協力の下、「ロータリー補助金モデル評価(GME)」のために約100回の現地視察を完了しました。多くの訪問は持続可能性に焦点を当てている一方で、重点分野、受益者の視点、職業研修チームなどに焦点を当てた訪問もありました。

去る11月、GMEの実施状況についてプログラム委員会と会合いたしました。現時点で評価は順調に進んでおり、使いやすいオンライン報告システムを通じて多くの貴重な情報が得られています。訪問の諸手配がうまく行かないケースもあり、そのためのガイドライン資料を作成するのがよいと考えられます。今回のGMEが今後の評価モデルを形成するものであると意識することが重要です。補助金専門家グループのメンバーには、報告書を通じてフィードバックを提供し、将来のモデルづくりに協力するよう呼びかけていきます。

GMEは来月に終了する一方で、補助金専門家グループメンバーは引き続き、補助金立案においてクラブと地区を援助し、資料の審査、現地訪問、監査といった必要な作業をこなしていきます。ここ数カ月、私たちは、視察訪問を完了したメンバーと会合したり、インタビューするなど、フィードバックを集めることに専念してきました。こうした対話を通じて、訪問の結果やプロジェクトの長所と課題をプロジェクト提唱者に伝えることができます。視察の結果の概要をプロジェクト提唱者に伝えることは重要であると私たちは考えています(ただし、ロータリー財団に提出される正式な報告書は極秘扱いとなります)。

極秘といえば、現地訪問の後、訪問中の出来事を仲間のロータリアンに話す際には注意が必要です。現地で面白おかしいことが起こったり、問題が生じたり、新しい教訓を学ぶこともあるでしょう。しかし、こうした逸話を他人に話すことは、私たちの守秘義務に反する行為です。研修で実際の体験を話す場合があるかもしれませんが、その際にもロータリーの守秘義務に反しない形で紹介することが重要です。この件については、次回の補助金専門家グループ研修会でも取り上げる予定です。

時折、「補助金専門家グループのメンバーはプロジェクトやプログラムを評価する資格をもつ人たちなのか」と聞かれることがあります。このような疑問を持つ人には、私たちには確固とした調査プロセスがあり、このプロセスはますます包括的で徹底したものとなっていると伝えることができます。

補助金専門家グループの目下の優先事項は、補助金申請の際に(プロジェクト立案の最初の段階から)当グループが専門知識を生かしてお手伝いできることを、クラブと地区に対してよく伝えることです。財団職員は、600名以上の専門家グループメンバーを、地域や言語、専門分野、経験(申請書作成、地域調査、モニタリングと評価、持続可能性など)に基づいていつでもデータベースで検索できます。当グループの援助があれば、申請書作成のフラストレーションを和らげ、財団職員の作業量を減らし、補助金プロジェクトの質と効率を高めることができます。

ロン・バートンRI会長からのメール



Ron D. Burton
President, 2013-14
T +1.847.866.3025
F +1.847.866.3390
ron.burton@rotary.org

2014年4月29日

3F Nishiei Bldg. 2-27-1, Habu-Cho
Kisiwada City, Osaka
Japan 596-0825

地区ガバナー 久保 治雄様

この度、第2640地区が2015-16年度ガバナーを選出する2度目の手続きを完了したと伺いました。直前ガバナーの北中登一氏が実施した1度目の選出手続きでは、2012年9月に豊澤洋太朗氏を選出し、同年10月にRIへ必要書類を提出しています。これに対して当時、異議や選挙手続きに関する申し立てはRIに一切提出されませんでした。

ところが、久保様がガバナーに就任後、豊澤ガバナーノミニーは失職したとの通知を発行の上、2度目の選出手続きが実施されました。2014年3月に完了したこの2度目の選出手続きでは、2015-16年度ガバナーとして新たに岡本浩氏を選出するとの通知が地区内クラブに送られました。

ここでご留意いただきたい点は、1度目のガバナー選出手続きは正規に実施されたものであり、豊澤ガバナーノミニーを失格とする根拠がないことです。さらに、地区ガバナーには、既に完了したガバナー選出手続きを無効としたり、選出済みのガバナーノミニーを失格とする権限はありません。

従って、豊澤洋太朗氏が第2640地区2015-16年度地区ガバナーであることをここに確認し、ロータリーの「超我の奉仕」の精神の下、久保様をはじめ地区内すべてのロータリアンが豊澤氏をサポートするようお願いいたします。またこの点について、至急、地区内クラブへ通知を行ってください。岡本浩氏については、将来の地区ガバナー候補としてご検討いただくことを奨励いたします。

第2640地区における論争は未だ解決に至っていないことから、小沢一彦管理委員に引き続き、私の特別代表となつていただくことを依頼し、恒久的な解決に向けた調整をお願いしました。ゲイリー・ホアンRI会長エレクトも、2014-15年度に小沢管理委員が続けて調整役を務めることに同意しています。

第2640地区が相違を乗り越えて前向きな解決策を見出せるよう、地区リーダーと地区内ロータリアンが協力することを改めてお願いいたします。まずはこれまでの紛糾を過去のものと考えてはじめて、地区を健全な状態に戻し、ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を実現するための真の奉仕に取り組むことができるはずです。

ご協力をよろしくお願いいたします。

ロン・バートン

CC: ゲイリー・ホアン 2014-15年度RI会長
小沢一彦 ロータリー財団管理委員
松宮 剛 RI 理事
北 清治 RI 理事
ジョン・ヒューコ RI 事務総長

地区目標 「ロータリーの原点に戻ろう」

地区運営方針

1. ロータリーの基本に戻り、奉仕と友愛を基調とした地区運営を目指す。
2. 地区内クラブの理解度不足による意見の相違を解決する。
3. 地区の各種会議をウェビナーで行う。
4. 地区内のクラブは年齢35歳未満の会員の会費と入会金を免除できる。
さらに、地区は、この年齢層の会員の地区賦課金を減額できる。

2015-16年度 地区目標

1. ロータリーの基本を学ぶ
2. 財団をサポートする
3. 会員増強に努める
4. 青少年活動を推進する

数値目標

会員増強 1クラブ純増 最低1名
新クラブ 最低1クラブの結成
財団寄付 200ドル/会員
ポリオ・プラス 50ドル/会員
米山奨学 20,000円/会員

ロータリーの特別指定月間

ロータリーの特別指定月間は、2015年7月1日より変更されます

8月:会員増強・新クラブ結成推進月間

9月:基本的教育と識字率向上月間

10月:経済と地域社会の発展月間

11月:ロータリー財団月間

12月:疾病予防と治療月間

1月:職業奉仕月間

2月:平和と紛争予防／紛争解決月間

3月:水と衛生月間

4月:母子の健康月間

5月:青少年奉仕月間

6月:ロータリー親睦活動月間

5月：青少年奉仕月間

- 青少年奉仕月間
- 「年齢30歳までの若い人すべてを含む新世代の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来を確実なものとするために新世代の生活力を高めることによって、新世代に将来への準備をさせること」を各ロータリアンの責務とし、すべてのクラブと地区は新世代の基本的ニーズを支援するプロジェクトに着手するよう奨励しています。

基本的ニーズとは、健康、人間の価値、教育、自己開発であり、国際ロータリーが用意する次の5つの常設プログラム

インターアクト

ローターアクト

ロータリー青少年指導者養成プログラム

ロータリー青少年交換

ライラ

・更に、国際ロータリーは児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的および精神的な虐待、とくに性的虐待あるいはハラスメントの防止に関する声明や指針を設け、その実践を勧めています。

・この点、わが日本においては、児童、生徒のいじめ、家庭内暴力、登校拒否などが現代教育の問題点になっていますが、ロータリーで特に取り上げたものではありません。

子どもに夢と感動を与える奉仕活動を新しいプログラムに

・これまでの常設プログラムは主として14歳以上の人々に対する取り組みですが、現在はキッズ対象のプログラムもあります。

•

とくに子どもの「しつけ」、幼児教育の重要性、子どもに夢と感動を与える奉仕活動の必要性を痛感します。

当地区では各常設プログラムの横の連携を強力にサポートいたします。

文庫通信(344)

ロータリー資料より

「[■デジタル化された資料は「※」及び次ページの「番号.pdf」のリンクをクリックすると表示されます。](#)

<ロータリー文庫通信>

ロータリー文庫通信344号 2016年04月 ロータリー情報

書名	著者/出版社	発行年	頁	※
Rotary Magic	江崎柳節 D.2710月信地区大会特集号	2016	12P	※
ロータリーにおける意志と信頼	ビチャイ・ラタクル D.2550地区大会記念講演	2015	43P	※
ポール・ハリスとロータリー	諏訪昭登 -	2016	7P	※
入りて学ぶ奉仕の心	安孫子貞夫 D.2800月信	2016	4P	※
ロータリーは円形ではない。楕円形である。	塚原房樹 D.2510月信	2016	1P	※
転轍手待望論	塚原房樹 D.2510月信	2016	2P	※
クラブ定款は自分のクラブ独自のものか？	櫻木英一郎 D.2790月信	2016	1P	※
ロータリーの目的 その1～4	深川純一 純ちゃんのコーナーPartXIV	2015	4P	※
決議23-34	東大阪みどりR.C. ロータリーの歴史に学ぶ	2016	2P	※

<デジタル化資料>

[■最近のデジタル化資料一覧はこちら](#)

2016/04/25掲載

- [△制定案64-1の後始末 解説](#)
- [△国際ロータリー1966年度国際大会において考慮される制定案ならびに決議案の概要](#)
- [△1966年国際大会への提出議案概説](#)
- [△制定案64-1の後日譚 その論争](#)
- [△最後の段階 R. I. とR. I. B. I. との問題について](#)

- [△1968年メキシコシティ大会提出制定案及び決議案の解説](#)
- [△立法案に関する国際大会の決定事項](#)
- [△1970年国際大会において審議される制定案並びに決議案の概要](#)
- [△1970年国際大会において審議される制定案並びに決議案の解説](#)
- [△制定案 70-10の提出理由](#)